

## 協議テーマ：学びの多様化学校について

## 委員からの主な意見

## 第5回 協議の視点

### 1 学校のビジョン (コンセプト) ポリシー

- 地域に根ざした非都会型の学びの多様化学校を考えねば、子どもたちがいきいきと学び、活動するのは難しい。地域とともに作ることが、特に高知県のような地域性では必要だろう。
- 他の教育機関(支援センター等)との役割・目的の違いを明確にして設置することが大切となる。
- 本人にとって安心安全な場所となり、不登校児童生徒に対して、学校に戻すのではなく、社会的な自立に導く支援等が必要だろう。
- 学びの多様化学校は自由度があるため、学校のビジョン等をしっかり設計することが大切。

### 2 設置場所 (立地)

- 高知県の地域性の中で一番大きい問題はアクセスの問題ではないか。
- 分教室のような形でできるだけ、アクセスしやすいところに点在化させることが可能なら望ましい。
- 中心的な学校は1つでよいが、何校か必要だろう。

### 3 教育課程等

- 自由度の高い柔軟なカリキュラム(教育課程)が求められる。
- 教科学習にとらわれず、社会性やソーシャルスキルを磨いたり、生徒の興味関心を生かしたり、体験活動を重視することが求められるのではないか。
- オンラインの学習も必要だが、対面の学校にどうもっていくかも子どもたちの次のステップの大事な部分になるだろう。
- カリキュラム構成もしっかり考える必要があるとともに、対象とする生徒像も明確化し、幅広いアプローチの準備をすることで、融通性を高くする必要がある。

### 4 教職員等

- 地域の人材も学校で活用できるとよい。
- 専門職種(養護教諭、SC・SSW等)やボランティアの配置があることが大切だろう。

### 5 その他

- 社会的に自立した人を育てるために、学力的な保障が必要。
- 学び直し(リカレント教育)も視野に入れた自己実現の視点も持てる学校になるとよいのでは。
- 学びの多様化学校での成果が他の教育機関にフィードバックされ、生かされる仕組みも重要。

高知県に合った学びの多様化学校とは

- 高知の特色をいかした教育課程について

- 地域の人材活用について  
・どのような活用方法があるのか

- 定員・受け入れ等

- 教育支援センター等、他の教育機関との役割・目的の違い